

## 第19回「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」体験乗船

○監物うい子・田代省三・田村貴正・吉澤理・荻田善之・小川麻由子・関野富貴・吉田美智子・武内境子・足立由美子・矢田紀子（海洋研究開発機構）、杉村誠・鈴木良博（新江ノ島水族館）、小味亮介（東京都葛西臨海水族園）、石垣幸二・石垣太陽（沼津港深海水族館）、村山 早紀（アクアパーク品川）、伊藤芳英（東海大学海洋学部博物館）

海洋研究開発機構では、未来を担う子供たちの海洋に対する夢や憧れ、興味喚起を目的として、ハガキに海洋への夢やアイデアを自由に描く「全国児童『ハガキにかこう海洋の夢コンテスト』」を実施している。第19回を迎えた平成28年度の応募数は17,271点であった。この中から入賞を果たした10名の受賞者と保護者を対象として、深海調査研究船「かいれい」に乗船する日帰り体験乗船を実施した。なお本航海は、水族館等との連携を深め、海洋科学技術の理解増進のための試料・資料の取得、も目的とした。

体験乗船は平成29年7月28日から30日に駿河湾で実施し、無人探査機「かいこう」を使用して入賞者が提案した、水圧による物の変化の実験、深海生物の観察、水温塩分の計測等の深海調査を実施した。各日にマスメディアの取材を案内し、新聞等を通じて活動内容を発信することができた。また、30日の体験乗船の様子はWebでの動画配信サービスであるニコニコ生放送で生放送され、約4万9千人の視聴があった。

体験乗船では、船内見学、水族館等職員からの深海生物等についての講義、「かいこう」による深海実験および海底観察、「かいこう」操縦体験、「かいこう」で採取した生物や泥の船上での観察を実施した。いずれにも入賞者は熱心に参加し、メモや写真を撮って自由研究としてまとめると話す子もいた。深海実験は、入賞者自らが提案した物や絵を描いた発泡スチロールが水圧によって変化していく様を真剣に観察しており、入賞者が提案した実験を行うことでより一層関心を持って臨んでもらうことができたと考えられる。また、「かいこう」にて海底に餌を置いて生物を誘引したところ、ホラアナゴの仲間やたくさんのクモヒトデ、ソコダラ等が観察され、入賞者たちは食い入るように「かいこう」のモニターを眺めていた。また、ユメナマコ、ハゲナマコ属等ナマコの類が多く観察され、スラップガンでの採取を行い、船上にて水族館職員等の説明により観察した。間近で観察し、より一層その生態等の理解を深めるとともに関心を高めてもらえたと思われる。

入賞者へのアンケートでは、全員が体験乗船を通して一層海洋や地球に興味を持ったと回答し、深海実験や生物観察に対する自由記述欄では楽しみながら学ぶことができた旨の回答が多く見られ、体験乗船は海洋への興味喚起、理解増進につながったものと考えられる。家族参加型での乗船実習は心に響くものも多く、将来の人材育成につながることを期待する。



「かいこう」着水の様子



「かいこう」操縦体験



深海生物の船上での観察